

デビュー50周年記念特別コンサート

大谷 康子

民族・言語・思想の壁を超えて
未来に向かう音楽会



2025年
1月10日(金)
18:30 開演
サントリーホール

【主催】
大谷康子50周年記念公演実行委員会

【企画構成】
伊藤裕太

【マネジメント】
株式会社ジャパン・アーツ

ご挨拶



私は今年2025年に楽壇デビュー50周年を迎えました！

たくさんの方々のおかげで大好きな♡ヴァイオリン活動を半世紀も続けてくることができて、とても感謝しています。

「音楽の力で世界を平和にしたい」という信条をもとに、様々な活動をしてきました。

この50周年にずっと大切にしてきた理念を形にしようと「民族・言語・思想の壁を超えて未来に向かう音楽会」を開催することにしました。

振り返ると長年、一般的なコンサートの他にかわいい乳幼児にヴァイオリンを聴いていただくことや、全国各地の病院や福祉施設に音楽をお届けしたり、自分でもびっくりするくらい色々なことをしてきて、とてもここに書ききれません。

音楽を通して世界の人々がなかよく♡なっていけるように！

この思いをみなさまと広く深く共有して実現できますように。

大谷康子

プログラム

使用楽器は 日本音楽財団から貸与
ストラディヴァリウス1702年製「ロード・ニューランズ」

[ラヴェル]

ツィガーヌ

大谷康子(ヴァイオリン)／藤井一興(ピアノ)

[ショスタコーヴィチ]

～ファシズムと戦争の犠牲者に捧げる～

弦楽四重奏曲第8番 ハ短調 Op.110

クワトロ・ピアチェーリ

大谷康子／齋藤真知亜／百武由紀／菊田雅治

[R.シュトラウス]

メタモルフォーゼン(変容)

～23の独奏弦楽器のための習作～

山田和樹(指揮)／大谷康子50周年記念祝祭管弦楽団

- 休憩 -

[クレンゲル(編曲 萩森英明)]

ヒムニス(讃歌)[ヴァイオリン合奏編曲版]

大谷康子祝祭ヴァイオリン・アンサンブル

[萩森英明]

ヴァイオリン協奏曲「未来への讃歌」

～ヴァイオリンと世界民族楽器のための～

山田和樹(指揮)／大谷康子／大谷康子50周年記念祝祭管弦楽団

三浦一馬(バンドネオン)／梅津和時(バス・クラリネット)

大西まさや(ソゴマ)／駒崎万集(ドゥタール)



曲目解説

伊藤 裕太

当夜のプログラムはヴァイオリニストの大谷康子さんが楽壇デビュー50周年を迎えるにあたり、「お祝い一色のコンサートではないコンサート」を企画して選んだものです。「音楽の力で世界を平和にしたい」という信条を大切にしながら音楽家人生を歩んできた大谷さんが、自らの理念を形にしようと「民族・言語・思想の壁を超えて未来に向かう音楽会」を開催することとなりました。

今年、NYフィルやシカゴ交響楽団へのデビューを果たし、来年にはベルリンフィルの指揮台に立つ世界的指揮者の山田和樹氏と、今夜一夜限りで、特別編成された楽壇のヴィルトゥオーゾ揃いの「大谷康子50周年記念祝祭管弦楽団」が聴衆の皆様とともに大谷康子さんの50周年を祝います。特別オーケストラのヴァイオリン奏者全員とヴィオラ奏者の幾人かは大谷康子さんからの薫陶を直接受けた教え子たちです。

今夜のプログラムは公益財団法人日本音楽財団から50周年のために特別貸与された稀代の名器、ストラディヴァリウス「ロード・ニューランズ」で演奏されます。

<第一部>

コンサートはラヴェルの「ツィガーマ」で始まります。ツィガーマとはフランス語で「ロマ」を意味します。歴史的にはかつて流浪の民であり、長く迫害を受けた民族です。この曲の前半、約4分もの間、ヴァイオリンの独奏が続きます。大谷康子さんは自分の特徴ある音色でサントリーホールを満ちたいと長年のパートナーである藤井一興さんとこの曲を冒頭に置くことを決めました。

「ファシズムと戦争の犠牲者」に捧げられたショスタコーヴィチ「弦楽四重奏曲第8番」は「クットロ・ピアチェーリ」の仲間たち一萩田雅治さん、百武由紀さん、齋藤真知亜さんと演奏します。クットロ・ピアチェーリはショスタコーヴィチの弦楽四重奏曲全15曲演奏、邦人作曲家の弦楽四重奏曲、現代の世界の注目作曲家の作品の演奏で2010年度文化庁芸術祭大賞を受賞しました。ショスタコーヴィチは第二次世界大戦後のドレスデンを舞台にした映画「ドレスデンの五日間」の音楽を書くためにドレスデンを訪れました。そこで戦争の惨禍を目の当たりして、1960年7月にわずか3日間でこの弦楽四重奏曲第8番を書き上げました。この曲には隠喩があり、ショスタコーヴィチ自身のイニシャルが音名「D-S(ES)-C-H」で織り込まれ、自分自身をもテーマにしていることを暗示しています。

前半の最後は第2次世界大戦末期に作曲されたりヒャルト・シュトラウスの「メタモルフォーゼン(変容)」を弦楽器のヴィルトゥオーゾ23人で演奏します。シュトラウスは1944年から45年にかけてドイツのミュンヘン郊外で作曲、ドイツ降伏直前の4月12日に完成しました。この曲は、戦争によりミュンヘンが瓦礫化し、ベルリン、ドレスデン、ウィーンのオペラハウスが破壊された苦痛の中で作曲されました。草稿には「ミュンヘンを失いたる嘆き」と書いたそうです。メタモルフォーゼンは「変容」と訳されるのが一般的です。この曲は変奏曲よりもっと自由に構成されていて、23人の奏者がそれぞれ独奏者として演奏する点が従来の弦楽合奏曲とは異なっています。「習作」とあえて付けているのはそのためでしょう。

<第二部>

後半は、まず、チェロ12本のアンサンブル曲として知られるクレンゲルの「讃歌」。萩森英明氏によるヴァイオリン編曲版を教え子たちとのアンサンブルで始めます。クレンゲルはメンデルスゾーンと同時代のライプツィヒのチェリスト・教育者・作曲家でした。この曲が第一次世界大戦後の1920年に作曲されたのは、戦争犯罪に関するライプツィヒ裁判が開廷されたことと無縁ではないかもしれません。ベルリンフィルが1972年に演奏依頼を受けて蘇演して以来、チェロを演奏する人たちの愛奏曲となっています。祈るように切々と歌い上げる「讃歌」は大谷康子さんが後進の奏者たちと合奏するのに最適と考えて、萩森英明さんにヴァイオリン合奏版への編曲を委嘱しました。原曲はチェロ12本で演奏されますが、萩森編曲版では、大谷康子さんのソロとヴァイオリン24本で演奏されます。

プログラムの最後を飾るのは、[世界初演] 萩森英明作曲の「ヴァイオリン協奏曲『未来への讃歌』〜ヴァイオリンと世界民族楽器のための〜」です。大谷さんは「音楽は民族・言語・思想を超えられる」という自らの信条 一半世紀にわたり唱え続けてきた一を萩森氏とよく話し合っ作曲を託しました。まもなく10年目を迎えるテレビ番組「おんがく交差点」で世界各地の民族楽器の奏者たちと共演してきた大谷康子だからこそ演奏できる作品となっています。過去も現在も私たちの願いである世界の平和に反して戦争や紛争が続いてきました。この曲には5人のソリストが登場します。アメリカ大陸は侵略戦争や紛争の歴史を有し、侵略や紛争が頻発し、今も麻薬や貧困が問題です。曲中では「バンドネオン」がアメリカ大陸の象徴として使われています。アフリカでは気候問題や飢餓や貧困問題が絶えません。中央アジアも宗教上の対立などで紛争が頻発してきました。その2つの地域の楽器として「ンゴマ」と「ドゥタール」そして、世界がこの瞬間も心配する中東情勢とウクライナへの侵略戦争。この象徴として「クレズマー音楽」の旋律を用います。これら4つの独奏楽器と欧州を起源とするヴァイオリンが絡み合いオーケストラとともに讃歌を歌い上げ、クライマックスへと向かいます。

大谷康子さんと萩森英明さんがこの混迷する世界にどんな未来を描くのか、音楽のチカラで現在の混迷を乗り越える希望を、ご一緒に見出そうではありませんか！

大谷康子さんがヴァイオリンを通して50年間活動し続けてきた思いが、広く深く伝わりますように切に願います。

出演者

大谷康子 (ヴァイオリン) *Yasuko Ohtani - Violin*

2025年にデビュー50周年を迎え、人気・実力ともに日本を代表するヴァイオリニスト。華のあるステージ、深く温かい演奏で聴衆に感動と喜びを届けており「歌うヴァイオリン」と評される。

東京藝術大学、同大学院博士課程修了。在学中よりソロ活動を始め、ウィーン、ローマ、ケルン、ベルリンなどでのリサイタル、トロント音楽祭、ザルツブルグ市などに招待され好評を得る。N響、モスクワ・フィル、スロヴァキア・フィル、シュトゥットガルト室内楽団など国内外の著名なオーケストラとも多数共演。また、1公演で4曲のヴァイオリン協奏曲を1日2公演行うという前代未聞の快挙を達成し話題となった。2017年はウィーンのみジークフェラインでリサイタルを開催。夏にはロシアの名門モスクワ・フィルの日本ツアーにソリストとして出演し絶賛を博した。キエウ国立フィルとは2017年以降毎年招聘されている(情勢により中断)。また、2019年5月に実力派ピアニスト、イタマール・ゴランと全国ツアー(12都市)を開催。最新CDはイタマール・ゴランとのフランスのエスプリ薫る珠玉の名曲集。CDは他に、ベストセラー「夢のあとに」「椿姫ファンタジー」(SONY)や、ベルリンでの録音による「R. シュトラウス/ベートーヴェン/ソナタ No.5 (ピアノ: イタマール・ゴラン)」(SONY)も評価が高い。その他多数リリース。著書に「ヴァイオリニスト今日も走る!」(KADOKAWA)がある。BSテレ東(毎週土曜朝8時より放送)「おんがく交差点」では春風亭小朝と司会・演奏を務め、八面六臂の活躍をしている。文化庁「芸術祭大賞」受賞。東京音楽大学教授。元東京藝術大学客員教授。東京藝大ジュニアアカデミー特別教授。(公財)練馬区文化振興協会理事長。川崎市市民文化大使。高知県観光特使。(公財)日本交響楽振興財団理事。(公財)日本演奏連盟理事。日本音楽財団より、1702年製のストラディヴァリウス「ロード・ニューランズ」を貸与されている。本年5月にはデビュー50周年記念として、5年ぶりとなるイタマール・ゴラン氏との全国ツアーが予定されている。

オフィシャル・ホームページ: <https://yasukohtani.com>

【公式YouTube】「大谷康子のやっこチャンネル」演奏動画続々公開!



© Yukisuke Fushimi



山田和樹 (指揮) *Kazuki Yamada - Conductor*

2009年第51回ブザンソン国際指揮者コンクールで優勝。ほどなくBBC交響楽団を指揮してヨーロッパ・デビュー。以来、破竹の勢いで活躍の場を広げている。

2012年~2018年スイス・ロマンド管弦楽団の首席客演指揮者、2016/17シーズンからモンテカルロ・フィルハーモニー管弦楽団芸術監督兼音楽監督、2023年4月からバーミンガム市交響楽団首席指揮者兼アーティスティックアドバイザーを務め、その後、2024年5月には同団音楽監督に就任。

日本では、東京混声合唱団音楽監督兼理事長、学生時代に創設した横浜シンフォニエッタの音楽監督として活動。

2026年4月1日より東京芸術劇場の芸術監督(音楽部門)に就任予定。2024年はシカゴ交響楽団やニューヨーク・フィルハーモニック等にデビューし、2025年6月にはベルリン・フィルハーモニー管弦楽団にデビュー予定。2022年にはモナコ公国からシュバリエ文化功労勲章を受章。



© SEIICHI KAUO

藤井一興 (ピアノ) *Kazuoki Fujii - Piano*

東京芸術大学在学中にフランス政府給費留学生として渡仏し、パリ国立高等音楽院を作曲科、ピアノ伴奏科共に1等賞で卒業。パリ・エコール・ノルマルを高等演奏家資格第1位で卒業。

作曲をO.メシアン、ピアノをY.ロリオ、M.クルチオに、ピアノ伴奏をアンリエット・ピュイグ=ロジェの各氏に師事。

世界初のフォーレ・ピアノ作品全集の校訂を担当。

東邦音楽大学大学院教授、東邦音楽総合芸術研究所教授、桐朋学園大学特任教授。



クワットロ・ピアチェーリ (弦楽四重奏) *Quattro Piaceri - String quartet*

大谷康子 (ヴァイオリン) / 齋藤真知亜 (ヴァイオリン) / 百武由紀 (ヴィオラ) / 菊田雅治 (チェロ)

2005年7月結成。半年間の準備期間を経て、2006年3月日本演奏連盟主催「都民芸術フェスティバル」でデビュー。2006年11月～2013年6月東京の王子ホールにおいて「ショスタコーヴィチ・プロジェクト」と称する定期演奏会を開催し、ショスタコーヴィチの弦楽四重奏曲全15曲の演奏に取り組み。ショスタコーヴィチと国内外の現代作品によるこの定期演奏会は、選曲や演奏などあらゆる点において高い評価を受けている。2010年11月に開催した定期演奏会で平成22年度第65回文化庁芸術祭大賞を受賞。2009年より名古屋・宗次ホールでも年1回ショスタコーヴィチ他の現代作品による演奏会を開催。2010年のサントリー芸術財団サマーフェスティバルではライブ・エレクトロニクスを伴うジョナサン、ハーヴェイの「弦楽四重奏曲第4番」の日本初演を行うなど、新しい作品に対する積極的な取り組みが目されている。



萩森英明 (作曲) *Hideaki Kaginomori - Composer*

東京芸術大学音楽学部作曲科卒業。作品はこれまでに群馬交響楽団、東京交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団、セントラル愛知交響楽団、京都フィルハーモニー室内合奏団、琉球交響楽団、ハワイ交響楽団、ルーマニア国立放送交響楽団などによって演奏されている。特に琉球交響楽団に書き下ろした『沖縄交響歳時記』はレコード芸術誌特選盤に選ばれた。編曲家としての活動も多く、これまでに日本の主要なオーケストラのために数百曲のスコアを書くほか、「おんがく交差点」「題名のない音楽会」「紅白歌合戦」等のTV番組の編曲など、活動は多岐にわたる。日本作編曲家協会理事。



三浦一馬 (バンドネオン) *Kazuma Miura - Bandoneon*

10歳よりバンドネオンを始める。アルゼンチンに渡り、バンドネオン界の最高峰ネストル・マルコーニ氏に師事。2008年国際ピアソラ・コンクールで日本人初、史上最年少で準優勝。2014年度出光音楽賞を受賞。2017年自らが率いる室内オーケストラ「東京グランド・ソロイスト」を結成。2022年、三浦一馬五重奏団によるアルバム「ピアソラスタンダード&ビヨンド」を日本コロムビアよりリリース。NHK大河ドラマ「青天を衝け」の大河紀行音楽演奏を担当するなど若手実力派バンドネオン奏者として各方面から注目されている。



梅津和時 (バス・クラリネット) *Kazutoki Umezu - Bass clarinet*

国立音楽大学在学中よりデビュー。70年代渡米しロフトシーンで活躍した後帰国、フリージャズ集団「生活上委員会大管弦楽団」続く「ドクトル梅津バンド (D.U.B.)」を立ち上げ日本ジャズの牽引となる。Rock, Blues, Pops でも活躍する一方、即興演奏家として過去にはアレン・ギンズバーグ、白石かずこ、大野一雄とも共演。クレズマーをテーマにした演奏、グループは90年代頭から手掛ける独自の感覚解釈で展開している。



大西まさや (ンゴマ) *Masaya Ohnishi - Ngoma*

ケニアのドゥルマ民族の村で伝統文化継承者スワレ・マテラ・マサイ氏に師事し、8年間に渡り音楽修行。ドゥルマ民族の伝統打楽器「ンゴマ・ンネ」や、アフリカンスタイルを取り入れたアコースティックギターなどで、オリジナリティ溢れるライブを展開。2024年ドゥルマ民族の伝統儀式を受け、ソゴラ (伝統音楽継承者) として認定される。



駒崎万集 (ドゥタール) *Mashu Komazaki - Dutar*

2015年 JICA ボランティアの音楽教師としてウズベキスタンの小中一貫校で活動。現地で民族楽器ドゥタールの音色に魅了され習得。ウズベキスタン、タジキスタンの美しい伝統音楽を弾き語り、音楽を通して中央アジアとの友好を築いている。

大谷康子50周年記念祝祭管弦楽団 *Yasuko Ohtani 50th Anniversary Festival Orchestra*

<ヴァイオリン>

白井 圭 (元NHK交響楽団ゲストコンサートマスター)
西本 幸弘 (仙台フィルハーモニー管弦楽団・九州交響楽団コンサートマスター)
安達 優希 (東京都交響楽団)
伊東 翔太 (東京都交響楽団)
伊部 祥子 (仙台フィルハーモニー管弦楽団)
上野 萌華 (ハンベルク交響楽団アカデミー)
薩井 清夏 (東京都交響楽団)
河裾 あずさ (東京交響楽団)
木村 正貴 (東京交響楽団)
小林 久美 (東京都交響楽団)
佐々木 絵理子 (新日本フィルハーモニー交響楽団)
嶋田 慶子 (NHK交響楽団)
鈴木 浩司 (東京交響楽団)
武田 桃子 (読売日本交響楽団)
立岡 百合恵 (東京交響楽団)
谷崎 大起 (日本フィルハーモニー交響楽団)
中川 直子 (東京音楽大学講師)
藤野 郁子 (東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団)
松谷 由美 (京都市交響楽団)
矢袋 美沙 (ベルリン放送交響楽団)
横山 琴子 (神奈川フィルハーモニー管弦楽団)
周防 亮介
福田 麻子
橘 和美優

<ヴィオラ>

市坪 俊彦 (東京藝術大学教授)
百武 由紀 (東京音楽大学特任教授)
西村 真紀 (東京交響楽団首席)
村田 恵子 (東京交響楽団副首席)
鈴木 まり奈 (東京交響楽団)
川邊 宗一郎

<チェロ>

辻本 玲 (NHK交響楽団首席)
菊田 雅治 (東京音楽大学客員教授)
海野 幹雄
門脇 大樹 (日本フィルハーモニー交響楽団首席)
笹沼 樹 (東京交響楽団客演首席)
松谷 壮一郎

<コントラバス>

吉田 秀 (NHK交響楽団首席)
幣 隆太郎 (シュトゥットガルト放送交響楽団)
小金丸 章斗 (読売日本交響楽団)

<フルート>

高木 綾子 (東京芸術大学准教授)
濱崎 麻里子 (東京交響楽団)

<オーボエ>

古部 賢一 (東京音楽大学教授)
池田 昭子 (NHK交響楽団)

<クラリネット>

松本 健司 (NHK交響楽団首席)
勝山 大輔 (東京都交響楽団)

<ファゴット>

水谷 上総 (NHK交響楽団首席)
菅原 恵子 (NHK交響楽団)

<ホルン>

福川 伸陽 (東京音楽大学准教授)
鈴木 優 (東京都交響楽団)
佐藤 文香
戸田 大貴 (神奈川フィルハーモニー管弦楽団契約団員)

<トランペット>

佐藤 友紀 (元東京交響楽団首席)
松山 萌 (東京交響楽団)

<トロンボーン>

池上 亘 (NHK交響楽団)
今村 岳志 (東京佼成ウインドオーケストラ)
山口 隼士 (シエナ・ウインド・オーケストラ)

<パーカッション>

菅原 淳 (東京音楽大学客員教授)
佐野 響平

(順不同・敬称略)

発起人代表挨拶

株式会社 証券保管振替機構 取締役 / 代表執行役社長 中村 明雄

大谷康子さんは2025年に、ヴァイオリニストとしてのプロデビューから50周年の記念の年を迎えます。

大谷康子さんの演奏家としての活動を振り返りますと、ソリストとしては、これまでにモスクワ・フィルハーモニー管弦楽団、スロヴァキア・フィルハーモニー管弦楽団、シュトゥットガルト室内楽団、キーウ（現ウクライナ）国立フィルハーモニー交響楽団など、海外オーケストラの演奏会に定期的に招かれ、お客様の心を打ち琴線に触れる大谷康子さんの「歌うヴァイオリン」の演奏は最大級の賛辞を得てきました。国内外のオーケストラの皆様と共演の機会をいただいた際には、団員の皆様から厚い信頼を受け、毎回高い評価をいただいております。

東京シティフィルの首席コンサートマスター、東京交響楽団のソロ・コンサートマスターとして、約35年の長きにわたり数々のコンサートを高みに導き、抜群の統率力でオーケストラ団員をまとめてきました。その経験は、今もかけがえのない糧となっており、そのステージはお客様の間で語り草となっております。

長らく定期的に出演してきた「テレビ朝日 題名のない音楽会」を通して、お茶の間に顔が知れ渡り、最近では、今年4月には10年目を迎える「BSテレ東おんがく交差点」で春風亭小朝師匠とともに多様な音楽シーンを演出して、SDGsにも貢献してきました。その姿勢は多くの視聴者に支持されています。

また、大谷康子さんは近年、日本の音楽界のために尽力してきました。公益財団法人日本交響楽振興財団の理事、公益社団法人日本演奏連盟の理事、公益財団法人練馬区文化振興協会の理事長、川崎市市民文化大使、高知県観光特使などの公職で重責を担ってきました。

教育面では東京藝術大学、東京音楽大学で教鞭を執り、後進の育成にあたり、日本全国のプロオーケストラのコンサートマスターに就任した方々やソリストとしてプロデビューする演奏家も教え子から輩出しています。また、幾多の音楽コンクールの審査員を務め、音楽界の後進の育成に貢献してきました。

このように、大谷康子さんは「日本のクラシック音楽界の稀有な存在」として活躍してきました。音楽界の女性の役割向上に身をもって尽くしてきました。「デビュー50周年」は、誰しものが迎えられるものではありません。

皆さまのお力添えで、大谷康子さんの50周年をご一緒に盛り上げていただけましたら、この上ない喜びと存じます。

発起人の皆様

中村 明雄 (株式会社 証券保管振替機構 代表執行役社長)
近衛 忠輝 (日本赤十字社 名誉社長)
前川 耀男 (練馬区長)
飯島 延浩 (山崎製パン株式会社 代表取締役社長)
奥田 真也 (株式会社不動テトラ 代表取締役社長)
山田 貞夫 (ダイドー株式会社 代表取締役社長)
水野 明久 (中部電力株式会社 相談役)
内藤 忠頭 (日本郵船株式会社 特別顧問)
日比野 隆司 (元大和証券株式会社 代表取締役会長)
北原 義一 (株式会社東京ドーム 代表取締役会長 CEO)
杉浦 正樹 (中部日本放送株式会社 代表取締役会長)
林 尚樹 (株式会社CBCテレビ 特別顧問)
加増 良弘 (株式会社BSテレビ東京 代表取締役社長)
大賀 緑 (故大賀典雄夫人)
大賀 昭雄 (東通産業株式会社 代表取締役)
森 佳子 (森ビル株式会社取締役 森美術館理事長)
堤 剛 (公益社団法人日本演奏連盟 理事長)
杉木 峯夫 (公益社団法人日本演奏連盟 専務理事)
金山 茂人 (東京交響楽団 最高顧問)
宗次 徳二 (NPO法人イエロー・エンジェル 理事長)
給田 英哉 (元丸紅株式会社 専務取締役)
原 武 (元サントリーホール 支配人)
岡崎 哲也 (松竹株式会社エグゼクティブフェロー、東京交響楽団理事長)
志田 明子 (東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団 代表理事・楽団長)

加藤 諱三 (早稲田大学 名誉教授)
丸山 恵一郎 (東京音楽大学 理事長)
野平 一郎 (東京音楽大学 学長)
鈴木 勝利 (元東京音楽大学 理事長)
秋山 和慶 (指揮者)
大友 直人 (指揮者)
山田 和樹 (指揮者)
春風亭 小朝 (落語家)
篠崎 史子 (ハープ奏者)
松本 白鸚 (歌舞伎俳優)
藤間 紀子 (松本白鸚夫人)
藤本 昭子 (九州系地歌箏曲演奏家)
斎藤 文夫 (元参議院議員)*
斎藤 達也 (三井タワークリニック 院長)
岡村 高雄 (岡村病院 院長兼理事長)
原 浩之 (株式会社白寿生科学研究所 代表取締役社長)
笠井 寛 (カサイホールディングス株式会社 代表取締役)
松本 佳晴 (株式会社ワールド航空サービス 特別顧問)
石川 晃三 (元株式会社ソミック石川 会長)
藤田 隆 (株式会社 藤田ビジネスプロモーター 代表)
遠藤 孝一 (株式会社テレビ東京 顧問)
関田 正幸 (株式会社ジャパン・アーツ 取締役 相談役)
二瓶 純一 (株式会社ジャパン・アーツ 代表取締役社長)
伊藤 裕太 (元日本ビクター株式会社 代表取締役社長)

(順不同・敬称略)

(*2024年11月29日に逝去されました)



大谷康子 デビュー50周年記念

ピアノ
イタマール・ゴラン

至高のデュオ再び。
繊細かつ雄弁な
極上のブラームス！

ヴァイオリン
大谷康子



(C) Masashige Ogata

<使用楽器>
1702年製
ストラディヴァリウス
『ロード・ニューランズ』
(日本音楽財団より貸与)

全国14公演

2025年

- 5月10日(土) 14:00開演 【高知県】 高知県立美術館ホール
- 5月11日(日) 14:00開演 【大阪府】 あいおいニッセイ同和損保 ザ・フェニックスホール
- 5月13日(火) 19:00開演 【宮城県】 宮城野区文化センターPaToNaホール
- 5月14日(水) 14:00開演 【群馬県】 高崎芸術劇場音楽ホール
- 5月16日(金) 13:30開演 【神奈川県】 みなとみらいホール・大ホール
- 5月17日(土) 14:00開演 【愛知県】 宗次ホール
- 5月18日(日) 15:00開演 【東京都】 Hakuju Hall
- 5月19日(月) 19:00開演 【北海道】 六花亭札幌本店ふきのとうホール
- 5月21日(水) 14時/18時 【静岡県】 札ノ辻クロスホール[2回公演]
- 5月22日(木) クローズド公演 【岡山県】 第77回 日本産科婦人科学会<会長招宴>
- 5月25日(日) クローズド公演 【東京都】 [2回公演・非公開]
- 5月26日(月) 18:30開演 【熊本県】 くまもと森都心プラザホール

Program

- 【ブラームス】
ヴァイオリン・ソナタ第3番 ニ短調 op.108
- 【クララ・シューマン】
3つのロマンス op.22
ほか

各公演の詳細情報は
大谷康子公式ウェブサイトにて
ご確認ください。





【協力】

山崎製パン株式会社 / 株式会社不動テトラ / ダイドー株式会社
三井タワークリニック / 大谷康子川崎後援会 / 株式会社藤田ビジネスプロモーター
株式会社ビデオプロモーション / 堂本製菓株式会社 / 東京ピースライオンズクラブ
株式会社総商 / 神奈川県敬神婦人連合会 / 翠月学園
株式会社フロンティアーズ / iDesign&Music